

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」のスピーチや、「書くこと」において、目的を意識して、適切な事例などを挙げながら、相手に自分の思いや考えを分かりやすく伝えること。 ○「読むこと」において、場面と場面のつながりを意識したり、具体例を比較したりしながら、登場人物の変容や筆者の考えや段落の要点を正確に読みとること。 ○読み取ったことや自分が考えたことを、言葉で伝え合い、考えを広げていくこと。 ○学習した漢字を正しく読み書きできるようになること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話題の中心は何か、一番伝えたいことは何かをはっきりとさせる。また、それに適した具体例や構成について検討する時間を設け、相手に伝わるか、自分で考えるだけではなく、ペアやグループで確認するようにする。 ○繰り返し出てくる言葉や同じ意味を表す言葉に着目させたり、具体例を表にまとめるなど内容を整理させたりする。一つ一つの言葉に着目させ、分からない言葉は、国語辞典等で調べる習慣を付けさせる。 ○内容を正しく読み取った上で、自分の考えを整理する時間を十分に確保し、交流する機会を増やす。 ○定着を図るために、テストをして学習した漢字が身に付いているか、確認できる機会を設ける。また、既習の漢字を復習する機会を設け、学習した文字の習熟を図っていく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○地図帳やグラフ、絵、写真など様々な資料の扱いに慣れ、資料から様々な視点で事象を読み取れるようになること。 ○調べたことをもとに、自分の考えをもち、その考えを分かりやすくまとめたり、友達に伝えたりすること。 ○学習内容と自身の生活をつなげられるようになること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一つの資料を全体で読み取る際には、様々な視点で読み取れている児童の考えを全体に共有していく。個別で調べる学習を進めるときには、習熟度に合わせた資料を複数用意する。 ○単元計画を立てる際に、課題をはっきりさせ、自分の考えをもてるようにする。自分の考えをまとめる時間を十分に確保し、伝え合う時間を増やす。伝え方とまとめ方の例を提示する。 ○調べたことや学習したことについて、その特色や自身の生活とのつながりを考えられるようにするための学習活動をしたり、問いかけをしたりしていく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを、図や式、言葉と関連付けて表現すること。 ○立式や計算の仕方を考える時、自分の考えや友達の考えを比べ、多様な解決方法があることを受け入れること。 ○重さや長さ、かさの小数を用いた単位変換について理解すること。 ○正しく、速く、正確に計算すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○めあてをよく吟味し、何を考えるのか意識させる。自分の考えを書く時は、式だけでなく、言葉と図も書かせるように指導する。既習事項をしつかりと振り返る。 ○ペアやグループで発表する時間を十分に確保し、友達の考え方のよいところを取り入れるように指導する。 ○図や具体物を用いて、数量感覚を養う。 ○日常的に1分計算などを取り入れ、定着を図る。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題を立て、予想することができるが、その理由を説明すること。 ○実験結果と考察が混ざらないように、自分で行った実験の結果を正しく記録し、その結果をもとに考察していくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○予想を立てる時に学習問題に似た日常の現象と結びつくような助言を行う。これまでの経験や既習事項とのつながりを考えさせる。 ○実験の結果をよく見て正しく記録し、そこから考えられることを自分の考えとしてまとめられるように指導する。

<p>図画工作</p>	<p>○児童は活動内容に意欲をもち、楽しみながら表現に取り組んでいる。児童の個性を伸ばすため、色々な題材を準備し、表現の幅をもたせるように指導していく。</p> <p>○技術面、発想面で消極的な児童もいる。</p>	<p>○児童が興味をもって、主体的に活動に取り組めるように教材研究を行い、毎回めあてを確認する。環境設定に気を配る。相互鑑賞の機会を多く設定し、自分や友人の作品のよさを認め合う。鑑賞のポイントをおさえて指導を行う。</p> <p>○個別指導に力を入れ、作品に対する子どもの思いが深まるよう、寄り添った声かけを行う。用具の安全な管理を行うとともに基本的な技能を確実に身に付けさせる。</p>
<p>音楽</p>	<p>○季節の歌などの歌詞について、想像力を働かせるなどの時間を確保する必要がある。</p> <p>○表現を工夫する学習では、クラスによって知識の豊富な児童や積極的な児童が発言し、あまり発言できない児童がいたので、考える時間や、意見交流の時間を確保して、活発に意見交換をしていくこと。</p> <p>○授業の振り返りでは、何を身に付けたかを振り返る際、焦点が絞れなかった。本時の目標設定をしていくこと。</p>	<p>○音読の時間を取り、歌詞から受けるイメージを皆で共有し、表現に生かしていく時間をしっかりと確保する。また既習事項や日常生活と絡め、児童が理解しやすく、学習の意欲が高まるような工夫をする。</p> <p>○ペア学習やグループ学習で、音楽に対して苦手意識がある児童にも意見を出してもらい、他の人のよい意見をノートに書くなど、皆で考えながら楽しく学んでいく雰囲気を作っていく。</p> <p>○曲の中に含まれるたくさんの音楽を特徴付けている要素（共通事項）から、楽曲分析をすることで、本時に身に付けさせることを精選し、学習計画を立てる。</p>
<p>体育</p>	<p>○運動時間を十分に確保していくこと。</p> <p>○作戦会議や学び合いをする場面で意見を積極的に発するのが、運動を得意とする児童など固定化されている。</p> <p>○運動の経験に差がある。</p>	<p>○運動時間を確保できるように授業ごとの計画を見直す。</p> <p>○見るポイントや教えるときのポイントをはっきりさせる。一人一人役割を設定し、全員が学び合いに参加できるようにする。</p> <p>○児童一人一人の運動能力に合わせてめあてを設定し、課題に取り組めるように授業を計画する。</p>
<p>道徳</p>	<p>○教科書から答えを探そうとする道徳にならないよう、発問を吟味し、授業展開を工夫していく必要がある。</p> <p>○児童一人一人が価値について自分ごととして考えていけるよう授業展開を工夫する必要がある。</p>	<p>○教材研究を行う際には、児童の反応例も予想し、多面的・多角的に考えたり自己の生き方についての考えを深められたりするよう発問や授業展開を考える。</p> <p>○少人数での話し合い活動を取り入れたり、振り返りの発問を工夫したりすることで、一人ひとりが価値について考えていけるよう授業展開を工夫する。</p>
<p>外国語活動</p>	<p>○「聞くこと」において、既習の英単語や英語表現からおおよその意味を推測すること。</p> <p>○「聞くこと」において、前後の文脈からおおよその意味を推測すること。</p> <p>○「話すこと」において、間違えることを恐れずに英語を口にすること。</p>	<p>○既習の英単語や英語表現は何度でも確認し、英語を聞かせるときには写真や絵を見せたり、デモンストラーションを見せたりすることで児童にはおおよその意味を推測させやすくする。</p> <p>○ストーリータイムで扱う物語は児童が既に内容を分かっているもの、かつ児童にとって馴染みのあるものにし、児童にはおおよその意味を推測させやすくする。</p> <p>○歌やチャンツをたくさん取り入れ楽しく繰り返し英語を口にさせることで、児童には少しずつ自信を付けさせる。</p>